

原始・古代・中世

第一展示室

品川区には大森貝塚や居木橋遺跡など、縄文時代から古墳時代にかけての多くの遺跡が確認されています。昭和58年(1983)、品川歴史館の建設工事の際に発見された大井鹿島遺跡は、それまでわからなかった品川ので古墳時代の生活を知る上で貴重であり、館内の床にその住居跡の出土場所を示しています。



大森貝塚貝層標本

8世紀半ば、武蔵国分寺に貢進された瓦に、初めて荏原郡の「荏」の文字がみえます。また、大井・品川の地名は12世紀中頃にあらわれた在地武士の大井氏・品河氏の姓となりました。



荏原銘貢進瓦(部分)

中世の品川は港町として栄えました。西国から船で運ばれた物資は、品川を経由して武蔵野平野の各地へ届けられたのです。また、海運商人の有徳人・鈴木道胤が妙国寺の発展に尽くすなど、この時代には多くの寺院や神社が寄進、建立されました。



妙国寺絵図(複製)

近世

第一展示室

江戸時代の品川は東海道第一番目の宿場として、また江戸四宿の一つとして重要な役割を果たしました。歩行新宿、北品川宿、南品川宿と続く町並みには、旅籠屋をはじめ多くの店が建ち並び、活気を見せていました。また、品川は、江戸庶民の行楽、遊山の地でもありました。御殿山の桜、海晏寺の紅葉、潮干狩などは特に有名で、浮世絵にも多く描かれています。



東海道品川宿の石垣石



柁船模型

品川は江戸湾に面し、品川浦、大井御林浦の2つの漁村を中心に江戸前の漁業が盛んでした。また、この辺りで採れた海苔は浅草海苔として売られていました。農産物では品川の葱と蕪、大井の人参、戸越の筍が特産でした。

幕末になると、黒船来航に伴って御台場の建設が始まり、打ちこわしが起こるなど品川宿は喧騒の渦に巻き込まれていきました。長州藩士の高杉晋作ら攘夷を唱える者たちが、御殿山英国公使館焼討ちのために土蔵相模に集合したことが知られています。

近・現代

第二展示室

明治になって、新橋ー横浜間に鉄道が開通すると、宿場として繁栄した品川は姿を変えていきました。文明開化の中で、官営「品川硝子製造所」をはじめ、目黒川沿いに多くの工場が建てられ、また、交通機関の発達に伴って急激に都市化が進みました。特に関東大震災後の荏原地域の人口増加はめざましいものでした。



金赤色被桜文ガラス花瓶

しかし、太平洋戦争が激化すると、品川もたびたび空襲に見舞われ、多くの建物が失われました。戦後の高度成長の中で、品川の内湾漁業が終わりを迎える一方、商工業は更なる発展を遂げました。



品川白煉瓦製造所製の耐火煉瓦

モース博士と大森貝塚

2階ロビー

明治10年(1877)、エドワード・シルベスター・モース博士は大森から品川へ向かう汽車の中から貝層を発見しました。同年、日本ではじめて科学的な発掘調査が行われ、日本考古学発祥の地となったのが大森貝塚で、昭和30年(1955)には国の史跡に指定されています。



エドワード・シルベスター・モース

大森貝塚遺跡庭園



品川区では、モース博士生誕の地アメリカ合衆国メイン州ポートランド市と姉妹都市提携を結んだのを記念し、昭和59年(1984)から一帯を整備し、翌年大森貝塚遺跡庭園として開園しました。その後、平成5年(1993)に一部改修、さらに同7年からは大規模改修が行われ、翌平成8年に庭園の敷地を広げてオープンしました。



「大森貝塚」碑

開園時間

通常：午前9時～午後5時

夏季(7～8月)：午前9時～午後6時

冬季(11～2月)：午前9時～午後4時

品川区立

品川歴史館

見学のしおり

品川区立

品川歴史館

趣 旨

品川歴史館は、郷土資料の保存と活用、区民文化の向上を目的に昭和60年（1985）に開館しました。

その後、開館10周年を期に平成8年（1996）3月、20周年を経て平成19年（2007）3月に常設展示部分をリニューアルし、現在に至っています。

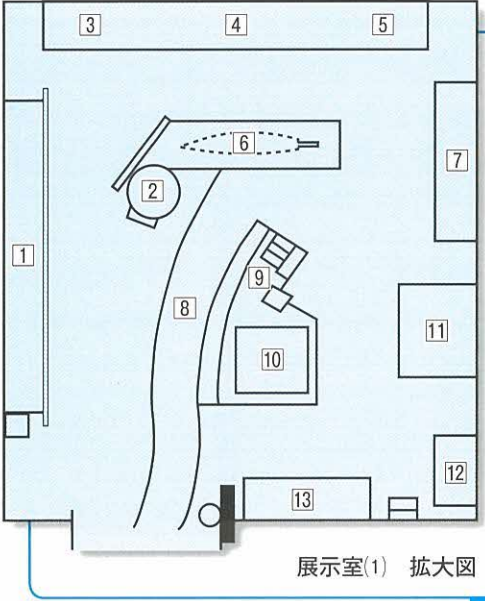
常設展示では、東海道第一番目の宿場として栄えた品川宿を中心に、原始・古代から現代にいたるまでの品川の歴史が学べるようになっています。また、国の史跡に指定されている大森貝塚については、1コーナーを設けています。毎年、特別展や企画展、コーナー展示、各種講座や講演会などを随時行っています。



品川宿の宿並復元模型

沿 革

歴史館建設前の敷地には、昭和初期に建てられた和風建築の建物（安田善助邸）があり、戦後は吉田秀雄記念館（株式会社電通所有）として茶事などに利用されていました。現在の品川歴史館は、安田家が建てた茶室「松滴庵」を庭園も含めて残し、書院造りの大広間も、できる限り材料を再使用して復元しています。



展示室(1) 拡大図



展示室(2) 拡大図

展示室(2)は、特別展・企画展の際は専用の展示室となりますので、14～20までをご覧になることはできません。

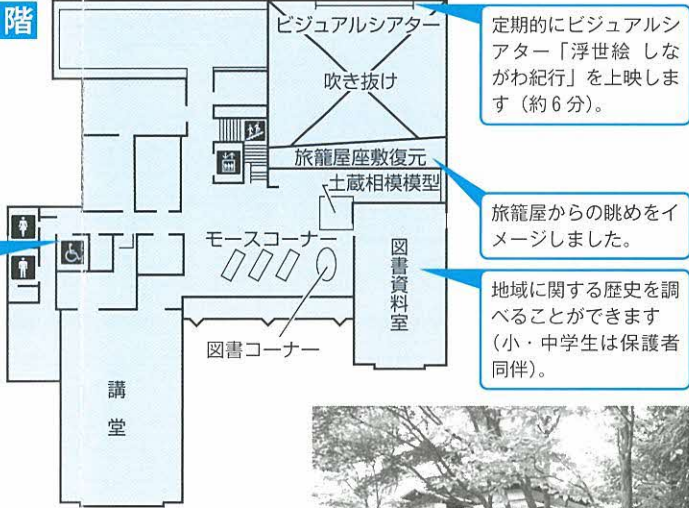


水琴窟

地中に埋められた甕に落ちた水滴の音が甕の中で反響して琴の音のように響くくみです。竹筒に耳をあて、水の響きをお楽しみください。

- ① 年表（原始・古代～近世）
- ② 常滑焼の大甕
- ③ 中世・品川のにぎわい
- ④ 江戸名所・品川
- ⑤ 海のくらし・陸のくらし
- ⑥ 桁船模型
- ⑦ 東海道品川宿
- ⑧ 品川宿の宿並模型
- ⑨ ビデオ「品川宿の今昔」
- ⑩ 品川宿本陣模型
- ⑪ 大名屋敷と鷹場
- ⑫ 品川御殿と東海寺
- ⑬ 幕末の動乱と品川御台場
- ⑭ 年表（近・現代）
- ⑮ 工業のあけぼの
- ⑯ 交通網の発達と都市化
- ⑰ 戦時下の品川
- ⑱ 復興から高度成長へ
- ⑲～⑳ コーナー展示

2 階



定期的にビジュアルシアター「浮世絵 しながわ紀行」を上映します（約6分）。

旅籠屋からの眺めをイメージしました。

地域に関する歴史を調べることができます（小・中学生は保護者同伴）。

パソコン検索で歴史館所蔵の浮世絵を見るコーナー、土器バズルのコーナーがあります。



茶室「松滴庵」

施設利用料

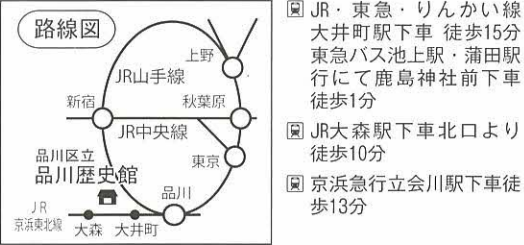
区 分	施 設 名	書 院 (50名)	講 堂 (100名)
平 日	午前（9：00～12：00）	6,000円	6,000円
	午後（13：00～16：30）	9,000	8,500
日	夜間（17：30～21：00）	12,000	11,000
土 曜 日	午前（9：00～12：00）	9,000	6,000
	午後（13：00～16：30）	13,500	8,500
日 曜 ・ 祝 日	夜間（17：30～21：00）	18,000	11,000
	午前（9：00～12：00）	9,000	6,000
	午後（13：00～16：30）	13,500	8,500

※利用は伝統的文化活動、歴史研究に限ります。
※書院は主に茶会などに利用できます。
※講堂は展示等に使用している場合があります。

利用の案内

開館時間 午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
休 館 日 月曜日、祝日（日曜日と重なった場合は開館）、祝日が月曜日の場合、その翌日も休館、年末年始、展示替期間
観 覧 料 一般 100円／小・中学生 50円
※品川区立の小・中学生、70歳以上の方、障害のある方は無料
※20名以上の団体は2割引
※特別展については別途

交通の案内



品川区立 品川歴史館
〒140-0014 東京都品川区大井6-11-1
TEL:03-3777-4060 FAX:03-3778-2615

品川歴史館 検索

古紙を配合した紙を使用しています。